

# 稲むらの火の館

2007年4月開館





# 稲むらの火の館の規模

敷地面積 5,020m<sup>2</sup>

濱口梧陵記念館

木造  
平屋建て  
瓦葺き

総床面積510m<sup>2</sup>

津波防災  
教育センター

鉄筋コンクリート造  
3階建

総床面積  
1,200m<sup>2</sup>

# 建設の経緯

- 1) 工事着工 2004年8月
- 2) 開 館 2007年4月
- 3) 設立機関 広川町
- 4) 運営機関 広川町教育委員会
- 5) 建設場所 濱口邸跡地
- 6) 建設費 11億円
- 7) 見学者数 年間2万人各種団体  
(小学校・自治会・老人会・校区役員等)





# 建設の動機

## 1) 日本の偉人、郷土の恩人

濱口梧陵の功績を伝承する

- ① 梧陵の恩恵に感謝すること
- ② 梧陵の業績を広く伝えること

## 2) 近い将来必ず起こる津波について学習する

- ① 津波についての知識を学ぶこと
- ② 津波の脅威を自覚し、防災に取り組むための動機付けとすること





# 館が見学者に見てほしいこと

## 1) 濱口梧陵と津波についての伝承 安政の津波(1854年)の事実

- ① わらに火を着け村人を助けたこと
- ② その夜から救済に尽力したこと
- ③ 3ヶ月後には堤防建設に着工したこと

この行為が村の復興にどのような効果があったか  
それが現在の防災活動にどう生かされているか  
ひろく世界へ発信して防災に役立ててもらふこと



# 館が見学者に見てほしいこと

## 2) 今からすぐ始めよう津波と防災の学習

### ① 津波の歴史と被害

津波のメカニズム、破壊力とその恐怖の認識

### ② 津波が来た時どう対応したらよいか

自助、共助、公助の訓練

### ③ 津波防災の取り組み

施設(ハード)と行動(ソフト)の両立

□ 津波は必ずやってくる

□ 学習と防災対策に時期尚早はない





# 当館の特徴



小学生からお年寄りまで  
どのレベルでも津波の学習ができる施設

## 《視聴覚に訴える工夫》

- 大画面3Dシアターで津波を体験する
- 長さ13メートルの水槽で模擬津波を作る
- 3Dハザードマップで各地の被害を予測する
- 津波の歴史が絵や写真や体験談で確認できる
- テレビゲームで遊びながら津波が学習できる



# 私が見学者に伝えていること

- ❑ 地震津波の発生に、正確な予測はできない
- ❑ 南海トラフの地震はおよそ100年ごとに起こる
- ❑ 低い津波も破壊力は大きい



津波のとき誰でも被災地域に入っている可能性がある。その時のために皆が津波の意識と知識をもってほしい。